

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成22年9月30日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871200390		
法人名	有限会社 修明		
事業所名	グループホーム 和み	ユニット名	東北ユニット
所在地	〒313-0044 茨城県常陸太田市下河合町953-1		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	
-----------------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当施設は歴史の街として知られております常陸太田市の南部に位置し、のどかな田園地帯にあり、隣町的那珂市との境には久慈川が流れ、春には菜の花が敷きつめ春爛漫を感じられる所にあります。そのような自然に恵まれた中で私達はおしゃべりをしながらのんびりと散歩をし、ホッと一息できるひと時を楽しんでおります。デイサービスはもとより、グループホームも、自称“よろず相談所”としてはや6年目。無我夢中で皆で力を合わせて頑張ってきました。今では、穏やかな一日の生活の流れの中でお年寄りの方の少しの変化も見逃さず、何を求めているのか、何を考えているのか分かるようになりました。また私達は人と人とのふれあいを大切にしています。“心とこころの架け橋の集い”と題し、近隣の保育園児や小学生はじめボランティアの方など多方面の方々が訪れて下さいます。そしていつも明るく楽しいひと時の中から生きるエネルギーをたくさんもらっています。一年間の季節行事は岩船神社の初詣に始まり、忘年会で締めくくります。年に一度の大イベント和みまつりの花形は、入居者の皆様による“楽団ジョイフル和み”の演奏です。丸5年の歳月を重ねた入居者の皆様の3曲演奏共大好評でした。また2年目の全職員によるソーラン踊りもお祭りに大きく花を添えることができました。このチームワークの良さを仕事に活かし、私たちの小さな気付きが皆様方の大きな安心につながります様、職員が一つになってこれからもきめ細かに生き甲斐を謳歌する人生への支援をさせていただきたいと思っております。いつの日か、もし私たちが認知症になったら……、その時生活したくなる様な笑顔あふれる、温かいグループホームを目指しています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念 1. 最良な環境で、最適な介護 2. 満足されるサービスの提供 3. 生き甲斐を謳歌する人生 スローガン 「満足されるサービスの提供で、地域の方々と共に歩む介護施設」 施設の理念を、朝の朝礼において唱和している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、葬儀に参列したりしている。日常的に散歩に出掛け、近所の方々と挨拶を交わしたり、野菜を頂いたりしている。近隣の小学生や保育園児が慰問に来たりしている。“和みまつり”には、町内80軒近くを一軒一軒まわりご案内状を渡し、大勢の方が参加された。地域活動として散歩をしながらゴミ拾いを実施している。また地区の敬老会には入居者も出席し、地域の方々と交流を深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幸久小学校との交流を持ち小学生の社会観育成に協力している。施設長が認知症ケア専門士の資格を取得したので、認知症介護での困り事はどうぞと地域の方から多方面にわたり相談を受けている。
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町内の現状や要望など色々な意見が出される。外部評価の結果や評価で明らかになった課題について報告をし、意見をもらっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議はもとより、事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題について常に相談をしている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送り時に、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか点検している。職員の見守りを徹底し、日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦」による手引きで再度身体拘束について話し合った。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。勉強会やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関して理解をする取り組みを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合には随時職員に説明し、利用者への支援に結び付けている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり、説明をして同意を得ている。契約時には、事業所の考え方や取り組み、退去を含めた事業所で対応可能な範囲について説明をしている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情・態度からその思いを察するようにしている。意見や不安などは朝のミーティング時に報告し、早期に解決している。ご家族には電話や手紙そして訪問時に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。ご意見箱を設置し、意見や苦情を受け止めている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員出席のミーティングを毎月実施し、職員の意見や要望を出している。代表者や管理者は職員の意見や要望を出来るだけ反映できるように心掛けている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に来て、利用者と接したり、職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援を行っている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外での研修には多くの職員が受講できるようにしている。学んだことを全職員が共有できるように研修報告会を実施している。施設内においても3ヶ月に1回は研修会を実施している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会や県地域密着型介護サービス協会へ参加し、意見交換や研修会を実施している。全国グループホーム協会、認知症ケア学会、宅老所・グループホーム全国ネットワークの会員となり、情報交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず利用前に本人と会って、心身の状況や本人の思いなどを知り、職員が本人に受け入れられるような馴染みの関係作りをしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所するまでの経緯をゆっくり聞くようにしている。初期面談の中で、困っていることや不安なことなど何でも話せるような雰囲気作りをしている。ご家族の求めているものは何かを理解し、事業所として何が出来るか考えている。
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、本人や家族の思いや状況を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者に教えてもらうこともある。喜怒哀楽を共にし、一緒に和やかに穏やかに生活が出来るようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族との絆の大切さを理解している。常に家族と情報交換をしながら、家族の思いに寄り添って本人を支援している。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の近所の友達が訪ねてきたり、毎月自宅に帰る利用者もいます。昔から美容院に行き続けている方には美容院での整髪や隔週2泊3日で帰宅する利用者があり、一人ひとりの生活環境を尊重している。
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	車椅子を押してあげたり、手を引いてあげたり、利用者同士お互いに支え合う、協力しあう雰囲気がある。日中はほとんどの利用者はフロア集まり、お茶や会話を楽しんでいる。お茶や食事時には職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。生活に馴染めない人には、利用者職員が協力して馴染める様な雰囲気づくりをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも、行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るようにしており、時々電話で近況を聞いたりしている。退所後の相談を受けることもある。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどの様に暮らしたいのか、何をしたいのか、誰に会いたいのか、日々の関わり合いの中で声を掛けたり、言葉・表情・行動の中から推測している。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族から入居までの生活を必ず聴きとって、職員全員で共有している。馴染みの物を持って来て下さるように話している。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解しながら、出来ることを中心にその人の全体を把握するようにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には、日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換をし、モニタリングを実施している。また本人や家族の要望や変化に応じても見直している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、バイタルチェックを行い、食事量・水分量・排泄など日々の健康管理の記録をしたり、少しの気付きも見逃さず記載している。日々の記録を根拠にしながら、介護計画の実施評価をし、見直している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や自宅への送迎、必要品の購入など必要な支援に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様が安心して地域で暮らし続けられるように、地域包括支援センター、民生委員、地区長、老人会長、ボランティアの方、消防（救急法）、小学校の児童の方との触れ合い、理美容サービスなど地域の方々の力を借りて意見交換をする機会を設けている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医が月2回訪問診療に来てもらっているが、利用前からのかかりつけ医での医療も受けられるように、ご家族と協力して通院介助を行ったりしている。認知症疾患センターのある医療機関が協力病院のため相談に行き易く、診察情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談助言対応を行っている。介護職員は利用者の少しの変化も見逃さず報告をしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも相談しながら、なるべく早く退院ができるようにアプローチをしている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切に、家族と話し合い、ご利用者が安心して終末期を過ごせるように取り組んでいる。重度化や終末期に伴う意識確認書を作成し、事業所が対応できる最大のケアについて説明を行い、医療機関と連携をとり職員全員に介護方針を統一徹底する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て実施した救急手当や蘇生術の研修をもとに、年1回の応急手当の施設内研修を実施している。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っている。また非常用食料備品（水、食品）と毛布を備えている。避難訓練では夜間を想定した避難や重度の入居者のための毛布での避難訓練等を実施した。地域の協力体制については運営推進会議で協力をお願いしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに一人ひとりのプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことを全員に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者が言葉では意思表示ができない時でも、表情や全身での反応をすばやくキャッチして本人の希望を把握する様にしている。 ・職員側で決めたことを押し付けず、利用者が自分で決める場面を作っている。(レクリエーションや散歩への参加、入浴や着替えなど)	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や本来持っているペースに配慮しながら、作業療法、レクリエーション、散歩やドライブなど本人の気持ちを尊重して個別に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはできるだけ本人の意向で決めてもらう。自己決定ができない人は職員と一緒に考えている。月1回の理容室も本人の希望に応じて実施する。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビを消して、利用者と職員が会話をして楽しみながら食事をしている。下膳や食器拭き、おしぼりたたみ等利用者で行っている。四季折々の伝統行事には、その雰囲気にならわしい食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。特に水分量が不足しがちで拒否をする人には経口補水液(ORS)やジュース等工夫をして飲ませている。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全ての職員が理解している。食前の健口体操や毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じた手伝いをしている。2回/日と外出から戻った時にはインソジンによりうがいをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間や習慣を把握し、尿取りパットの使用や時間毎の声掛けをして、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。水分補給や運動をしたり、職員が腹部マッサージや便秘に効くツボを押したりすることにより自然排便ができるように取り組んでいる。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴を実施しています。入浴したい日に入浴をしています。拒む人に対しては言葉掛けなど工夫をして入浴支援をしている。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中は活動を促し、生活リズムを整えている。睡眠導入剤はできるだけ使用せず、寝付けない時には飲み物を飲みながらおしゃべりをしたり、テレビを見たりして眠れるように支援している。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように、服薬ファイルを作成。服薬は本人に薬を手渡し、きちんと服用できているか確認をしている。本人の状態の経過等も日誌に記載している。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケやパズルや草引き、洗濯物たたみ等一人ひとりの生活歴や好みによってレクリエーションを行っている。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように役割を持って生活している。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には利用者の体調に注意しながら散歩をしている。歩行困難な方も車椅子を利用して戸外に出掛けている。季節感を味わうために、花見や浜辺に行ったり、ぶどう狩り、紅葉狩りにも行っている。時には、おにぎりやおやつを持って野外での食事なども楽しんでいる。本人の希望する行ってみたい場所へ行くことができるよう支援している。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持できることで安心したり、買物をすることで楽しめたりする人がいるので、家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいる。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように個別に支援をしている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎月作る入居者の方の作品や飾りつけがある。室内に季節の花や額などを飾って家庭的な雰囲気を作っている。廊下の手すりの位置を低めに設置し使用しやすいようにしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や居間やウッドデッキに椅子やテーブルを置き、一人で過ごしたり、家族知人との団欒や仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不安や混乱が無いように、利用者様の好みや馴染みの物（写真や使い慣れた物）を用意し、本人が居心地の良い場所としている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの“わかる力”を見極めて、不安や混乱の無いように環境面で工夫している。利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境を整え、安全確保と自立への配慮をしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	① ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	① 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	① ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある ③ たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1. 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	① ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない